

社会福祉法人 秋桜会
理事長 加賀 武夫 様

湊高台こども園
園長 加賀 昭子

園評価についての報告

平成29年度園評価を実施しましたので、ご報告申し上げます。

1 園の教育目標

「こころも からだも つよいこ」

- 明るく元気なこども
- 自分で考え、行動するこども
- 思いやりのあるこども

2 平成29年度の重点目標・計画

■食育の推進～年長組のバケツ稲づくり

日本人の主食である米を自分たちで植え、育てて収穫することにより、稲作文化への理解を深め、農家の方への感謝の気持ちを持つ。また、栄養士・調理師と関わることで、食事を作る人を身近に感じ、作られた食事をおいしく、楽しく食べる。

■子育ての支援～親との信頼関係の構築

入園児の保護者との連絡を密にし、信頼関係を築き、園児が安心して生活できるように配慮する。また、施設見学者からの子育てに関する相談などを受けて、地域の子育て家庭に対しての支援を行う。

■小学校との連携

行事の見学、教職員の交流をとおして、就学児や保護者が安心して就学できるように支援する。

3 具体的目標・計画

評価について

A 十分達成されている B 達成されている C おおむね達成されている D 取り組みが不十分

(1) 教育課程・指導について

内容	取り組み状況	評価
★3歳以上児 ・話を聞く態度を育てる ・あいさつが出来る子 ・我慢できる子	・毎朝のホールでの活動の際、約束事を確認し、実際にどのように行動したらみんなが心地よく生活できるか、考えるよう促した。	B 来客者へ積極的にあいさつする様子が見られた。話を聞く態度については、もう少し工夫をしながら園全体で取り組んでいく必要がある。

★3歳未満 基本的な生活習慣 発達過程に応じた教育 の視点を取り入れる	・衣類の着脱は、トイレトレーニングや午睡時の衣類着脱する機会に自分でできるところは自分でやるように、支援した。 ・色、形などをもとにした集合遊びを積極的に取り入れ、集合という概念に興味を持てるようにした。	A 参観日にも集合遊びの要素を取り入れた活動を行い、楽しんで活動する様子が見られた。
★乳児 愛着の形成を図る	・家庭との連携を密にし、連絡ノートや登降園時の声掛けなどにより、子どもや保護者との信頼関係を作るようにした。また、保護者へ「乳幼児期の愛着について」を園だより、参観日での講演会を通じて積極的に伝えていった。	B 親子間の愛着形成を図るための具体的な行動を伝えていけるよう、工夫が必要。

(2) 保健管理

内容	取り組み状況	評価
日常の健康観察	・乳児は毎日2回の検温を実施。体調が気になる子は定期的に検温して、体調の急変に対応できるようにした。家での様子は連絡ノートでの体調の変化の様子を教えてもらうなどし、それぞれの健康管理に生かせるようにした。午睡時の職員の心理的負担を緩和するため、午睡チェックシステムを導入。	A 家族が感染症に罹患した場合も、園に情報を提供してもらいながら園児の健康管理に努めた。
感染症、健康に関する 情報提供	・現在流行している感染症の情報を積極的に出すことにより、体調不良の子が病院を受診しないことのないように声掛けを行った。 ・分園には、24時間の空気清浄機を設置し、インフルエンザの季節にもほとんど罹患者が出なかった。	A 保健だよりの発行を行い、健康関連知識の啓発を行っていききたい。
環境検査	・食器の検査、CO2検査、採光、騒音等基準を満たしており、指摘はなかった。一日2回の換気や、毎朝の水質検査は職員が実施しており、異常もなかった。	A 31年度にダニの検査を実施する予定。(今年度は新築なので実施せず。)

(3) 安全管理・危機管理体制

内容	取り組み状況	評価
遊具の安全点検・園庭 の環境整備	・月一回、職員の目視による点検を行った。また、年一回遊具設置業者による点検を行った。本園増築に伴い、園庭の遊具の場所を再配置し、ペンキの塗り直しをした。 ・もみじの木の剪定を業者に依頼して、枝折れなどがないように処理をした。	A 増築に伴い、園庭が狭くなったが、配置を工夫して事故の無いように努めた。

安心教室の実施	・SECOM 職員の協力の下、不審者侵入の訓練を行った。不審者かどうか、判断に難しいパターンだったため、対応する職員も自分で考えながら対応した。	B 子どもたちへの説明が不十分だった。紙芝居等を使ってわかりやすく説明出来たらよかった。
避難訓練の実施	・月 1 回の避難訓練、年 2 回の総合避難訓練、年 1 回自然災害避難訓練を実施。緊急連絡網の整備等を行った。	A 今後は、管理職がいない場合の対応についても行っていきたい。
防災設備の点検・整備	・年 2 回、業者による非常ベルと消火器の点検を実施。 ・本園に火災通報専用電話機を設置。火災の時には自動で消防署に通報できる装置である。職員へ使用方法を説明してもらった。	A 設備は整っているのに、有事でも落ち着いて使用出来るようにマニュアルを作る。
事故防止委員会の開催	・3 か月に 1 回会議を開催、ヒヤリハットの検証、再発防止を協議した。また、そのうち 1 回は職員の事故防止に関する園内研修を行った。	A ヒヤリハットの情報を共有することにより、職員の共通認識の構築につながった。
非常災害対策計画の内容検証	・28 年度に制定した非常災害対策計画について、内容を検証。緊急連絡網を訂正して追加。 →電源喪失時に提供するメニュー、レシピ等のマニュアルを作ることを計画中。	B 非常食の計画的な整備、メニュー等追加する。

(4) 組織運営・処遇

内容	取り組み状況	評価
職員の処遇改善	・準職員と正職員の身分について見直しし就業規則を改正し、職員の処遇の改善を図った。処遇改善Ⅱを活用し、ベースアップにつなげた。	A 職員の処遇がある程度改善されたと考えられる。
職員配置の工夫	・分園設置により、本園と分園に配置すべき人数が想定していたよりも多くなった。産休代替職員の確保や、人員増員をして対応した。	B 定数に余裕がない人員配置となった時期があった。
人材育成	・平成 29 年度より、キャリアアップ研修が始まり、職位や経験年数に応じた研修を受けることとなった。全 8 分野の項目の中から、それぞれに必要な分野を選択し、受講を始めた。処遇改善手当につながる研修なので、それぞれのクラスの状況も勘案しながら計画的に受講することが必要となる。	A 年度後半にスタートしたキャリアアップ研修だったが、4 名の職員が集中的に研修を受ける体制を整えられた。

(5) その他

内容	取り組み状況	評価
家庭・地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりで、子育て情報、教育保育の状況を発信するようにした。また、ホームページを全面改正し、行事の様子を写真付きで紹介できるように、また、スマートフォンでも閲覧しやすいようにした。 	<p>A</p> <p>長年の懸案だったホームページについて頻繁に更新できる状態になった。</p>
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫したじゃがいも、さつまいも、だいこんは、給食の材料にした。自分で収穫した作物に対して、愛着がわいた子どもたちが多かった。 ・昨年度に引き続き、年長組がバケツ稲を育てた。夏場の天候不良により、刈り取りまで行ったが中に実が入っていないものが多く、今年は食べることができなかった。 →いつも作物が豊作になるわけではなく、不作になる年もあるということを身をもって体験した。 	<p>B</p> <p>栄養士や調理士がより一層保育の現場に関わることでできる体制を作りたい。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談、園だよりで子育て情報を提供した。 →30年度は、未就園児へのリトミック遊びなどの活動を企画している。 	<p>B</p> <p>余裕があれば実施する状態だったが、30年度は一步踏み込み、計画的に実施できる体制を作りたい。</p>
小学校との円滑な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・湊地区幼保小連携協議会が立ち上げられ、定期的集まって情報交換を行った。今後も継続して情報交換を行い、接続カリキュラムについて協議を続けていく。 ・青潮小学校の交流会は、1年生と就学児が直接触れ合えるような形に変わり、より小学校の雰囲気を感じられるようになった。 	<p>A</p> <p>職員同士の交流が持てる機会が出来たことは大きな進歩だった。今後も継続して接続カリキュラムを充実させたい。</p>

全体の評価について

本園増築、分園新築による工事で、4月から6月は落ち着いて保育ができない状況だった。7月以降施設が完成してからは、環境的にはゆとりが出来たが、人員の確保などがなかなか思うようにいかなかった。職員の質の向上のためのキャリアアップ研修も始まったため、保育教諭の配置を常に配慮しなければならない状況だった。

平成30年度は、指導要領が改正される。それに対応したカリキュラムマネジメントも必要になる。園の独自色を出していくためにも、今後園がどのような方向に進んでいきたいかということをしきりと形にしなければいけない。キャリアアップ研修も引き続き継続するため、計画的に受講できる体制を整えていく。